



# Red Hat Ansible Automation Platform 2.2

## 自動化サービスカタログワーカーのインストール

Red Hat Ansible Automation Platform を拡張して Ansible Automation Platform 2.0 Setup または Setup Bundle Installer で [cloud.redhat.com](https://cloud.redhat.com) の自動化サービスカタログに接続する手順



## Red Hat Ansible Automation Platform 2.2 自動化サービスカタログワークターのインストール

---

Red Hat Ansible Automation Platform を拡張して Ansible Automation Platform 2.0 Setup または Setup Bundle Installer で [cloud.redhat.com](https://cloud.redhat.com) の自動化サービスカタログに接続する手順

## 法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

フィードバックの提供: このドキュメントを改善するための提案がある場合、またはエラーを見つけた場合は、テクニカルサポート () に連絡し、Docs コンポーネントを使用して Ansible Automation Platform Jira プロジェクトで issue を作成してください。

---

## 目次

はじめに .....	3
多様性を受け入れるオープンソースの強化 .....	4
第1章 自動化サービスカタログワーカーのインストール .....	5
1.1. 前提条件 .....	5
1.2. インストーラーへのホスト変数の追加 .....	5
1.3. インストーラーの実行 .....	7



## はじめに

Ansible Automation Platform Setup または Setup Bundle Installer を使用して、Red Hat Ansible Automation Platform を拡張して cloud.redhat.com の Automation Services Catalog に接続できます。

これは Day 2 のアクティビティーであり、Automation Controller のすべての基本リソース/オブジェクトへの **書き込みパーミッションを持つサービスアカウント** の設定 (組織、ユーザー、プロジェクト、ジョブテンプレート、およびインベントリー) が必要になります。

Catalog ワーカーには、Red Hat Ansible Automation Platform ネットワーク内のホストに割り当てられた変数セットが必要です。カタログワーカーを実行すると、アプリケーションとアプリケーショントークンの作成、必要なパッケージのインストール、サービスの起動が行われます。



### 重要

自動化サービスカタログのサポートは、2.4 以降の Ansible Automation Platform では利用できなくなりました。

## 多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) を参照してください。



## 第1章 自動化サービスカタログワーカーのインストール

以下の手順に従って、Red Hat Ansible Automation Platform を拡張し、cloud.redhat.com の {Catalog} ホスト化サービスに接続できます。

### 1.1. 前提条件

- /inventory で指定した組織のサービスアカウントに関連付けられた自動コントローラーおよびインスタンスグループのノードが RHEL 8.4 仮想マシンで実行されている。
- Red Hat Subscription Manager を使用して RHEL 8.4 仮想マシンを登録している。インストーラーは、cloud.redhat.com での認証に使用する証明書を生成します。
- Ansible Automation Platform SKU をカタログワーカーノードに割り当てている。
- 自動化サービスカタログワーカーを実行する RHEL 8.4 仮想マシンで SSH を有効にしている。
- 自動コントローラーにインベントリ、プロジェクト、ジョブテンプレートなど、少なくとも1つの組織が設定されている。
- 上記の全オブジェクトに対する書き込みパーミッションを割り当てた組織ごとにサービスアカウントが作成されている。アプリケーショントークンは、インストーラーの実行時に作成され、前提条件として必須ではありません。

### 1.2. インストーラーへのホスト変数の追加

自動化サービスカタログワーカーをインストールするには、インストールパラメーターに使用する Red Hat Ansible Automation Platform インストーラーに **ホスト変数** を追加する必要があります。host\_vars ファイルでは、指定する各ホストに関するパラメーター情報を格納します。利用可能なすべてのパラメーターおよび必要なパラメーターについては、以下の表を参照してください。

表1.1 利用可能な host\_vars パラメーター

パラメーター	必須
servicescatalog_controller_hostname	
servicescatalog_controller_name	
servicescatalog_controller_user	○
servicescatalog_controller_password	○
servicescatalog_controller_validate_certs	
servicescatalog_http_proxy	
servicescatalog_https_proxy	
servicescatalog_no_proxy	

## 手順

1. Ansible Automation Platform の設定または設定バンドルインストーラーディレクトリーに移動します。

```
# cd ansible-automation-platform-setup-<latest>
```

2. **host\_vars** という名前の新規ディレクトリーを作成します。

```
# mkdir host_vars
```

3. 必要なホストごとにファイルを作成します。2つのホストに関するパラメーターの例を以下に示します。

- a. **localhost** のサービスアカウント:

```
# touch finance
```

```
ansible_connection: local
```

```
servicescatalog_controller_name: Finance
```

```
servicescatalog_controller_user: finance_sa
```

```
servicescatalog_controller_password: <password>
```

- b. 追加ホストのサービスアカウント:

```
# touch marketing
```

```
ansible_host: IP address
```

```
ansible_user: [User should have sudo access to install packages and write to system-level configuration files]
```

```
ansible_become: true
```

```
servicescatalog_controller_name: Marketing
```

```
servicescatalog_controller_user: marketing_sa
```

```
servicescatalog_controller_password: password
```

4. 各ファイルを保存します。
5. Ansible Automation Platform インストーラーで **inventory** ファイルを開きます。

```
# vi inventory
```

6. 各ホストの **host\_vars** を **[servicescatalog\_workers]** の下に追加します。

```
[servicescatalog_workers]
```

```
finance
```

```
marketing
```

7. インベントリーファイルを保存します。

### 1.3. インストーラーの実行

これで、インストーラーの実行に進むことができます。

- Ansible Automation Platform の設定スクリプトを実行します。

```
# ./setup.sh
```

自動化サービスカタログワーカーを実行すると、アプリケーションとアプリケーショントークンの作成、必要なパッケージのインストール、cloud.redhat.com への接続、およびサービスの起動が行われます。

#### 検証

自動化サービスカタログワーカーがインストールされ、自動化サービスカタログに接続し、自動化サービスカタログに順序付けされたジョブが Automation Controller で実行されていることを確認できます。

#### 前提条件

カタログ管理者であり、ポートフォリオの作成と製品の追加ができる。

1. cloud.redhat.com にログインします。
2. **Ansible Automation Platform** → **Automation Services Catalog** に移動します。
3. **Platforms** をクリックします。
4. **host\_vars** 用に作成したホストに関連付けられたプラットフォームを見つけます。
5. プラットフォームをクリックします。
6. Automation Controller の **インベントリ** および **テンプレート** が含まれていることを確認します。